

平成24年度 自己点検・評価の内容

自己点検・評価 様式

大学名 明治薬科大学

研究科・専攻名 薬学専攻博士課程

入学定員 5名

○ 理念とミッション

4年制大学院課程教育では、本学の建学精神に則り、薬科学・生命科学の学識理論及び応用に関わる研究と教授を通じて、生命科学系（医療系、衛生科学系など）及び社会薬学系（レギュラトリーサイエンス、薬剤疫学など）の高度な知識と研究能力を持つ薬学研究者・教育者、薬事行政担当者の養成を行うとともに、医療系諸学会の認定する専門薬剤師の取得を目指す薬剤師や企業内研究者及び行政担当者などの社会人にも広く門戸を開放し、社会と連携した高い学術活動を推進することを目的とする。大学院教育の実質化を推進し、実験研究能力、情報発信能力及び臨床研究運営能力に秀で、国際的通用性と信頼性を基盤に薬学関連諸領域において重要な役割を担うことのできる pharmacist scientist の養成を目指す。

○ アドミッションポリシー

6年制薬学科では、薬剤師国家資格を取得し調剤や医薬品管理に留まらず広く医療安全や薬物治療に責任を持つ高度な職業人としての薬剤師の養成が教育目標であり、薬学専攻博士課程では、さらに科学的真理の探求心にあふれ高い倫理性を備え人間性豊かで、国内外の生命科学系（医療系、衛生科学系など）及び社会薬学系（レギュラトリーサイエンス、薬剤疫学など）の様々な分野において、高度な知識と研究能力を身につけ薬学研究者・教育者、薬事行政担当者として活躍を希望する6年制薬学科卒業生を求める。また、志を同じくする他学科・他学部卒業生や、医療系諸学会の認定する専門薬剤師の取得を目指す薬剤師や企業内研究者及び行政担当者など社会と連携した高い学術活動の推進を志向する社会人を広く求める。

○ 受験資格

一般的な受験資格である6年制薬学部を卒業した者(卒業見込みを含む)及び旧薬学教育課程の修士課程を修了した者で薬剤師免許を有している者を除き、貴学の受験資格について該当するものに○を付すこと

(複数回答可)

- 1. 6年制課程(医学部、歯学部、獣医学の学部)を卒業した者
- 2. 外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学、歯学、薬学または獣医学)を修了した者
- 3. 修士課程を修了した者(薬科学)
- 4. 薬学以外の修士課程を修了した者
- 5. 旧薬学教育課程の学部を卒業した者(学力認定※)
- 6. その他(学力認定) ※ 大学院において、個別の入学資格審査により、6年制の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

- ・ 4. の場合は、どのような人材を養成するのかについて下記に記載すること
- ・ 薬剤師免許を有していない者について、どのような人材を養成するかについても同様に下記に記載すること
- ・ 5. 6. について、学力認定を行う場合、その審査基準(具体的に求める研究歴や職務経験年数等について)を下記に記載すること

(1) 上記4. の「薬学以外の修士課程を修了した者」や「薬剤師免許を有していない者」については、多彩な背景を考慮したコースワークを組み、国内外の生命科学系(医療系、衛生科学系など)及び社会薬学系(レギュラトリーサイエンス、薬剤疫学など)の様々な分野において、高度な知識と研究能力を持ち薬学研究者・教育者、薬事行政担当者として活躍できる人材を養成する。

(2) 上記5. 6. について、学力認定を行う場合の審査基準は、医療系諸学会における学会活動歴、学会発表や論文発表などの実績を重視し、各種専門薬剤師を志向する場合には医療提供施設で2年以上を目処に適切な職務経験を積んでいることなどを評価し、6年制の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認める目安とする。

○ 入学者選抜の方法

入学者選抜の方法は、推薦入学試験と一般入学試験による。一般入学試験は、専門科目筆記試験、外国語試験及び面接試験で合格者を決定する。推薦入学試験は、明治薬科大学薬学科の学生に対して、在学中の成績をもとに面接試験で合格者を決定する。社会人に対しては、別途社会人選抜試験を行う。面接試験では、受験動機、受験にいたるまでの研究経験や大学院での研究に対する抱負、学位取得後の活躍への希望などについてプレゼンテーションの機会を設け総合的観点から評価を行う。

- 入学者数(平成24年度) 6名
(内訳:6年制学部卒業生 0名、社会人 6名、薬学部以外の卒業生 0名)

- カリキュラムポリシー

薬学部出身学生はもちろん薬学部以外の出身学生の指向性と就業背景を考慮し、人材養成の目的に沿う体系的なコースワークを通じて、個別化した体系的・組織的教育プログラムを展開する。同時に、自発的研究課題発見能力や、自立的な研究推進能力、研究成果を説明できるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、情報発信力の養成を重視する。

- カリキュラムの内容

多様な研究指向性と研究内容を持ち、かつ大学院在学中の研究遂行の場が、研究室における実験研究から臨床試験までを包含することを考え、学生の指向性に応じたコースワークと実務研修の遂行を大学院生の就業背景を考慮し個別化した教育課程を提供する。臨床指向性を持った病態生理、薬物治療学、環境衛生、薬剤疫学、レギュラトリーサイエンスなどの諸分野の博士課程にふさわしい教育・研究をミッションとし、これらの授業科目を設定し選択可能にするとともに、長期の臨床実習を通じて各種専門薬剤師を養成するカリキュラム、高度な臨床病態や環境科学の研究者を養成するカリキュラム、最大1年間の留学を通じてグローバルな場で活躍できる薬剤師を養成するカリキュラムを準備している。博士論文の研究テーマとしては、「高血圧薬物治療におよぼす塩分および果物摂取量の影響」、「薬物応答性に関するゲノム薬理学的研究」、「医薬品の効果と副作用に関する薬剤疫学的研究」、「薬剤性腎障害の尿中バイオマーカーの検索」、「NF- κ B をターゲットとした抗炎症薬・免疫抑制薬の開発」、「薬物応答性の人種間相異に関する影響因子の検討」、「新しい薬剤師業務の臨床的有効性の検証」、「薬物応答性に関するバイオマーカーの探索」、「真菌細胞表層に発現する病原因子の解析」、「遺伝性難病に対する新規治療薬開発に関する研究」、「生活習慣病等の予防に有用な天然薬物の薬学的研究」等を予定している。

- ・ 別途シラバス及び教育課程等の概要(別紙様式第2号)を添付すること(別添)
- ・ 履修モデルを添付すること(別添)

- 博士論文の研究を推進するために医療提供施設との連携体制をどのようにとるか（予定を含む）について以下に記載すること

新制度の『大学院4年生博士課程』においては、臨床薬学専攻大学院前期および後期課程を15年間運営してきた実績に基づく外部医療機関との良好な連携の下に、個別化薬物治療を目指す研究や薬剤疫学研究などの臨床研究を実施する機会を確保する。同様に米国イリノイ大学、カナダ・アルバータ大学、英国ハートフォードシャー大学などの本学の大学院と学術協定を締結し高度な研究環境が整った海外の医療提供施設との連携により、世界的な視野で臨床薬学の教育、研究の交流につとめていく。さらに、社会人の再教育のシステムを用意し、臨床の現場での薬剤師職能の形式的ではなく、実質的に臨床、医療の場を転換できる能力の向上に寄与する教育を目指すために、社会人が働きながら学べる条件を最大限配慮し、教育内容が臨床現場に効果的に波及できる体制を組んでいる。

- 学位審査体制・修了要件

薬学課題研究の審査は、学位認定の厳格性及び透明性と客観性を担保するために大学院担当教員の中から主査1名、副査2名以上の審査委員を定め、委員が博士論文の審査、試験及び学力の確認後、博士論文口頭発表会における内容と質疑応答等を基に大学院薬学研究科会議において学位を認定する。大学院薬学専攻の修了要件は、本研究科に定められた期間在学し、必修科目28単位と選択科目12単位以上の合計40単位以上を修得し、研究指導を受け、かつ本研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格することである。審査申請基準は、申請者がfirst authorでかつ指導教員が共著者である欧文論文（ピア・レビューあり）が1報以上である。

- ディプロマポリシー

当該研究科の定める期間在学して必須単位以上を修得し研究指導を受け、所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。自発的研究課題発見能力や、自立的な研究推進能力、研究成果を説明できるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、情報発信力など、薬学部出身者か否かに関わらず研究者として自立して活動でき高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識と実務、高い職業的倫理性と責任感を身につけているかどうか、課程修了の基準である。